

研究チーム幹事

氏名 出口 晶子

1. 研究題目：

関西湾岸エリアの海の文化観光と広域連携

2. 研究の中間報告：

関西湾岸は、背後の山河を含め、特色ある自然・歴史文化遺産が重層的に存在するエリアである。それらは、世界遺産として知られる高野山、熊野古道や姫路城、世界遺産の国内推薦がきまった百舌鳥・古市古墳群にとどまらない。淡路島の野島断層や紀の川から吉野川へ連続する中央構造線、四国巡礼道や瀬戸内海など、新たな広域連携によって無限に資源価値を高めうる自然や文化がそこにはある。

本研究チームでは、関西湾岸エリアの海の文化観光を船祭り等の民俗や観光舟運、自然・文化景観の写真解析、水中考古遺産や港に集積する企業文化などから多角的に実地検証し、適切な文化資源の保全をはかりつつ、海や船の視点を軸とした観光とその広域連携を実現するための共同研究を実施している。

まずチーム幹事の出口晶子は、城の堀割や川・環濠での小さな船旅から、和歌山—徳島、洲本—関空—神戸など対岸の都市どうしをつなぐ中規模の船旅がはたす役割と課題について実地調査し、基本情報を収集した。おりしも 2017 年は、大阪港や神戸港が開港 150 周年を迎えたことから、海の文化や海港をめぐる教育・観光に資する活動が数多く展開された。また 2017 年 7 月には淡路島・洲本港—関西国際空港間の定期航路が、(株)淡路関空ラインによって運行開始された。近年の訪日外国人旅行客の増加から 10 年ぶりに復活したもので、水道を約 1 時間で結ぶ。さらに洲本港と大阪岬町の深日港を結ぶ定期運航航路の社会実験（船の名は INFINITY）も 6 月から 98 日間にわたり実施され、サイクリングツーリズムの新たな可能性をひきだした。こうしたリアルタイムな動向をふまえつつ、2018 年 1 月 29 日、和歌山市役所で開催された甲南大学プレミアプロジェクトのシンポジウムにおいて、関西湾岸の広域観光の課題と可能性に関する中間研究発表を行った。

共同研究会は 8 月と 12 月、計 2 回全員参加で実施し、共同研究メンバーとおもに以下のような研究共有・情報交換をはかった。

奥野明子は、堺市の地場産業に焦点をしばり、地域的特色が顕著な複数の企業体について文献調査を重ねつつ、中世からの創業史を有する企業の選定を行い、次年度の聞き取り調査につながる有力な知見をえた。出口正登は専門的な写真記録によって、観光適

地化の実地調査を和歌山・徳島・堺・大阪・淡路島沿岸等で実施し、観光適地化と自然・文化景観の解析における写真記録の重要性をひきだした。木村淳は紀淡海峡に沿った和歌山県友が島と淡路島由良港一帯の海底遺跡の実情について、聞き取りとアンケート調査を実施し、次年度の水中調査に不可欠な基本情報を収集した。

以上の成果をうけ、2年目は、海むこうの対岸とつながる水陸双方の交通の視点を交差させながら、関西湾岸域での参与観察、聞き取り調査等を継続する。とくに同エリアの船だんじり・船祭りにみる民俗文化の連続性、湾岸景観の観光適地化にむけた課題群等を検証する一方、中世自由都市・堺と兵庫津遺跡の連関、友が島の水中考古遺跡と堺の企業文化等の連関にも着目し、海の文化資源の保全課題を抽出する。これらの研究成果をもとに、関西湾岸の地理・歴史的特性にねざした海の文化観光とその広域連携推進の道を拓く。